

2月17日12:00Kick Off / 秩父宮 / 5919人		
タマリバ (東京)	21-0	六甲クラブ SEAHAWKS
Name(cm/kg/age)	Name(cm/kg/age)	
1 岩下剛史 (168/90/35)	1 北迫孝治 (180/100/38)	
2 加来孝之 (167/83/25)	2 安田昇 (180/89/33)	
3 小川弘道 (170/120/23)	3 比嘉裕貴 (178/100/24)	
4 小泉康治 (180/86/32)	4 池田豊和 (188/82/27)	
5 桑江雄行 (190/100/26)	5 打出信博 (180/90/31)	
6 小山陽平 (171/75/29)	6 平位篤志 (172/83/23)	
7 西澤潤二 (176/92/30)	7 伊藤宏成 (173/80/27)	
8 井戸龍多 (184/95/26)	8 清水義明 (183/90/35)	
9 首藤三四郎 (160/65/26)	9 赤嶺宏樹 (169/65/31)	
10 竹山将史 (170/70/28)	10 伊藤康裕 (170/70/36)	
11 吉川慶 (165/67/31)	11 山本幸宏 (174/85/30)	
12 田中佐介 (173/70/21)	12 江口悠隆 (172/70/30)	
13 池田淳 (180/85/32)	13 泉雄也 (178/80/26)	
14 松澤誠之 (175/82/30)	14 二口龍一 (167/75/29)	
15 福井宏樹 (180/81/26)	15 山内朝敬 (178/74/26)	
16 矢野碧 (180/91/26)	16 朝比奈信昭 (167/85/24)	
17 石川悠久 (175/85/23)	17 松谷二郎 (173/88/30)	
18 山崎文博 (170/78/37)	18 遠藤信太郎 (182/93/26)	
19 野村能久 (173/88/33)	19 長谷川博章 (165/70/28)	
20 宮原克典 (172/70/25)	20 飛田直 (173/80/24)	
21 高木亮輔 (170/75/24)	21 周本亮輔 (176/84/37)	
22 安川敬 (168/65/30)	22 林周一郎 (174/77/26)	
入替/交替	入替/交替	
入替 後半30分	入替 後半9分	4→18
	入替 後半25分	9→19
	入替 後半32分	12→21
	入替 後半33分	3→17
	入替 後半36分	6→20
	入替 後半36分	11→22

1月14日11:00Kick Off / 本城陸 / 400人		
六甲クラブ SEAHAWKS	17-14	北海道バーバリアンズ (北海道)
Name(cm/kg/age)	Name(cm/kg/age)	
1 北迫孝治 (180/100/38)	1 山田修平 (180/98/36)	
2 安田昇 (180/89/33)	2 マット・コンター (175/94/33)	
3 比嘉裕貴 (178/100/24)	3 櫻福宏紀 (178/120/22)	
4 池田豊和 (188/82/27)	4 羽立直也 (184/90/24)	
5 打出信博 (180/90/31)	5 辻拓 (184/95/34)	
6 平位篤志 (172/83/23)	6 舘訪隆茂 (178/73/31)	
7 伊藤宏成 (173/80/27)	7 ポール・マクドナルド (187/100/30)	
8 清水義明 (183/90/35)	8 佐伯政明 (180/85/31)	
9 赤嶺宏樹 (169/65/31)	9 松本華 (170/72/24)	
10 伊藤康裕 (170/70/36)	10 鈴木貴博 (172/65/22)	
11 山本幸宏 (174/85/30)	11 池田哲平 (184/77/24)	
12 江口悠隆 (172/70/30)	12 村屋孝雄 (180/92/27)	
13 泉雄也 (178/80/26)	13 プレイト・ピーク (182/85/29)	
14 二口龍一 (167/75/29)	14 山崎正晴 (168/68/33)	
15 山内朝敬 (178/74/26)	15 菅田幸介 (186/85/24)	
16 朝比奈信昭 (167/85/24)	16 若本貴道 (175/90/25)	
17 松谷二郎 (173/88/30)	17 仲澤一也 (167/90/27)	
18 遠藤信太郎 (182/93/26)	18 飛田直 (173/80/24)	
19 長谷川博章 (165/70/28)	19 及川浩之 (178/80/23)	
20 飛田直 (173/80/24)	20 小松武敬 (173/76/34)	
21 周本亮輔 (176/84/37)	21 佐沢有斗 (177/76/22)	
22 林周一郎 (174/77/26)	22 渡辺健 (173/70/24)	
入替/交替	入替/交替	入替/交替
入替 前半21分	入替 後半3分	3→17
入替 後半22分	入替 後半3分	5→18

1月13日11:00Kick Off / 鞘ヶ谷競技場 / 100人		
六甲クラブ SEAHAWKS	52-12	ウルトラマンクラブ (大分)
Name(cm/kg/age)	Name(cm/kg/age)	
1 朝比奈信昭 (167/85/24)	1 佐藤隆 (166/82/36)	
2 安田昇 (180/89/33)	2 宮崎輝尚 (167/92/33)	
3 松谷二郎 (173/88/30)	3 先山清貴 (180/95/34)	
4 安達英二 (180/90/34)	4 立麻徹 (180/100/35)	
5 打出信博 (180/90/31)	5 衛藤広顕 (184/88/28)	
6 平位篤志 (172/83/23)	6 清水龍二 (172/80/30)	
7 伊藤宏成 (173/80/27)	7 平松幸三 (181/86/29)	
8 横田哲史 (181/79/23)	8 安井大樹 (180/80/30)	
9 岡孝次 (165/65/29)	9 岡野司 (168/65/33)	
10 伊藤康裕 (170/70/36)	10 粟林外記 (171/80/29)	
11 山本幸宏 (174/85/30)	11 村上昇 (170/73/19)	
12 田部新一 (173/75/31)	12 吉良真人 (176/85/27)	
13 林周一郎 (174/77/26)	13 福澤満 (174/75/28)	
14 川上将史 (175/76/26)	14 二宮啓一 (176/73/32)	
15 山内朝敬 (178/74/26)	15 伊藤幹史 (170/70/31)	
16 北迫孝治 (180/100/38)	16 朝比奈信昭 (167/85/24)	
17 比嘉裕貴 (178/100/24)	17 阿南哲之 (170/83/26)	
18 清水義明 (183/90/35)	18 渡多学江 (178/78/35)	
19 長谷川博章 (165/70/28)	19 木下昌樹 (182/80/32)	
20 遠藤信太郎 (182/93/25)	20 野木大彰 (170/65/19)	
21 野中社太 (170/74/26)	21 井手平健二 (180/86/30)	
22 江口悠隆 (172/70/30)	22 竹尾勝 (175/80/34)	
入替/交替	入替/交替	入替/交替
入替 後半0分	入替 後半0分	6→19
入替 後半0分	入替 後半0分	10→22
入替 後半0分	入替 後半0分	3→17
入替 後半1分	入替 後半2分	1→16
入替 後半12分	入替 後半30分	4→19
入替 後半12分	入替 後半30分	11→20
入替 後半20分	入替 後半31分	12→21



特定非営利活動法人 六甲クラブ



ラグビーを楽しもう!

~NO RUGBY, NO LIFE~
LIFE STYLE WITH ROKKO CLUB

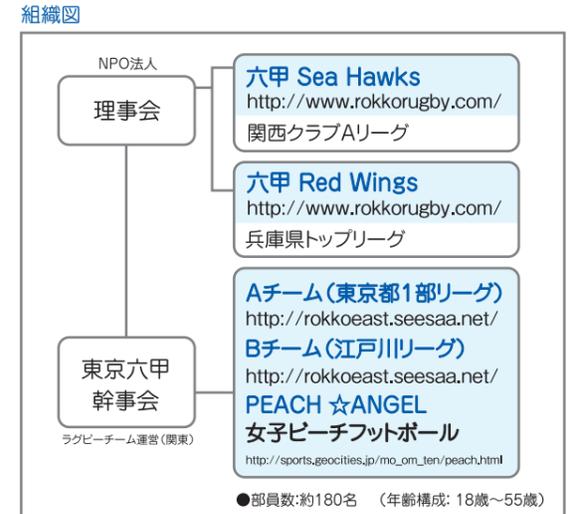
六甲クラブが目指していること!

ラグビーで地域を元気にする ~「楽しく・強く」をモットーに、生涯にわたりラグビーを楽しめる環境を提供する~

- 基本理念達成のための重点事項
- 1:子どもたちの憧れ、地域の誇りとなるトップレベルのラグビーチームをつくる
- 2:より多くの子どもたちがラグビーに親しみ土壌作り貢献する
- 3:幅広い年齢の人たちがラグビーを楽しめる環境づくりに貢献する
- 4:地域のラグビーレベル向上に貢献する

クラブの活動	
・トップチームの育成・運営	・ラグビー技術の情報収集と地域還元
・さまざまな普及事業の実施	・中学・高校への指導者派遣
・スポーツイベントの開催	・試合会場での観光パンフ配布や地域物産のPR
地域への波及効果	
・自己実現の場の提供	・スポーツをする子どもが増える
・地域からの情報発信(知名度アップ)	(心豊かなたくましい人材の育成)
・スポーツを通じた感動(参画・観戦とともに)	・地域のラグビー全体のレベルアップ

地域が元気になる!



サポーター募集

六甲クラブを応援して下さるサポーターを募集しています!

●サポーターの年会費と特典内容

クラブの活動を行うためには、何よりも実際に活動するクラブ会員一人ひとりの熱意が大切ですが、併せて、熱意を行動に移すための財政基盤をより強固なものにすることも必要となります。できるだけ多くの方々からご支援いただき、それに応えられるクラブチームとなるようクラブ一丸となって取り組んで参りますので、何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

①後援会員(個人)	②団体会員(企業会員)	③ユニフォームロゴ・スポンサー
年会費 5,000円 予定している特典 ・会報の送付(年2回) ・試合・行事等のご案内	年会費 1口10,000円(原則2口以上) 予定している特典 ・会報の送付(年2回) ・会報等での企業紹介	別途ご相談

申し込み・お問い合わせは下記まで
特定非営利活動法人 六甲クラブ
サポーター会員募集事務局
TEL:090-3082-9494
e-mail:rokkoclub@hct.zaq.ne.jp
中島誠一郎まで

プレーヤー募集

Turn Your RUGBY

~ラグビーは快感と苦痛と仲間作りのスポーツ。だから楽しい、やめられない~

我々六甲クラブは同じ想いのもと、海外のクラブと同じように様々な異なる仕事をしている人間がラグビーという共通の趣味を楽しむために集まり、より高いレベルでクラブライフを楽しむことを目指しています。各人のプレーのレベルに合わせて所属するチームを選ぶことができ、そうすることで試合を楽しめる環境作りを進めています。学校や企業のバックアップを得られない中で練習場所も自分たちで確保し、当然金銭的な負担もある上で趣味としてのラグビーを本気で続ける…。そんなクラブのプレーヤーたちのラグビーへの愛情にはとても深いものがあり、それゆえに得られる感動もたくさんあります。

下手だっていいじゃない。かっこ悪くたっていいじゃない。何歳になっても「うまく」なりたいたい。だから...ラガーマンなら、六甲でプレーすべきだと思う。ラグビーのために時間をさくのではなく、自分の生活を楽しむひとつとしてラグビーを楽しむ。ボクたちはそうありたいと思っています。



見学・入部を希望する場合はHPからお申し込みください。
<http://www.rokkorugby.com>

活動状況はブログにも掲載中!!

<http://ameblo.jp/rokkoclub/>

王者の誇り 挑戦者の闘争心。

決勝戦 タマリバ vs 六甲クラブ(2月17日)



東京、秩父宮ラグビー場。3年ぶりに六甲クラブは夢舞台に帰ってきた。タマリバ撃破と、日本選手権への切符は確かに目の前にあった。しかし、一つのプレーで変わった流れを取り戻すことは、最後までできなかった。

全てはこの日、この時のために。キックオフ直前、ロッカールームの照明が消えた。「この試合に出られなかった人、サポートしてくれたスタッフ、応援してくれるたくさんの人たち…。六甲クラブの代表として、プライドを持って、思い切り闘おう!」主将・伊藤ヤスの涙交じりの声が暗闇に響く。あちこちで嗚咽と鼻をすする音が漏れる。身体がたぎり、あふれる思いが頬を伝う。命を燃やせ! やってやる。やってやるって。

ラグビー人生の全てを抱きしめて、六甲戦士は聖地に飛び出していった。

ファーストフェイズで手応えを感じた。王者タマリバの鍛錬されたアタック、タックルにも当たり負けはしなかった。3年前のオレ達じゃない、いける! 今季貫き通した戦術で、六甲は主導権を握った。

前半9分。ラインアウトの要・L O池田が、不運にも味方と接触。脳震盪で口から大量の血を吐き、担架で運ばれる。ピッチは暗雲立ち込めるかに見えたが、逆に六甲の闘魂は燃え盛った。

観客席も言葉を失うほどの激しい攻防が展開される。F L伊藤マイク・平位が突き刺さる。北迫、安田、打出が鉄壁のタマリバ防御陣をこじ開けようと何度も突破を試みる。六甲クラブ38年のプライドが聖地のグラウンドで爆発する。バックスタンドに陣取った200人以上の応援団も、胸を震わせながら声援を送りつづけた。

トライチャンスも何度かあったが、勝負所で痛恨のミス。それでも集中を切らすことはなかった。前半終了間際のゴールを背にした鬼気迫るデフェンスに、後半へ期待がもたれた。

「いつも」のようにトライを量産できないタマリバ。フラストレーションがたまり、タックルが首に入る場面もあったが、ハーフタイムでしっかり戦術を修正してきた。

後半6分、六甲のアタックで、ラックをターンオーバー。S H首藤が瞬時に六甲陣へ真っ直ぐにキック。タマリバC T B池田と六甲F B山内の競争となったが、バウンドしたボールは池田の胸に転がり込み、そのまま先制トライを許してしまった。

「あのプレーで試合の流れが変わった」と、桜岡レフェリーがコメントしたように、以後六甲は防戦中心の苦しい展開になってしまいます。攻めてもボールが手につかず、逆にタマリバH B団の反則からのクイックプレーに大きくゲインを許してしまう。

残る2つのトライは六甲のミスを見逃さなかった王者の底力だった。

六甲は最後まで集中を切らさずに戦った。倒れても倒れても、ひるまず前に出た。ロスタイムを含め、プライドを胸に戦った86分はあつという間に過ぎた。第2試合(三洋 v s 東芝)の前に集まった5919人の観衆の前に「関西に、日本のクラブに六甲あり」を十分にアピールできた。「前半は六甲さんの捨て身のタックルで受身に回ってしまったが、後半の3トライは、普段からどれだけ真剣にラグビーに取り組んでいる人間の数の差が出た結果だと思う」。



試合後のファンクションでタマリバ・桑江主将は誇りに満ちた表情で語った。「まだ甘い。六甲には負けない」というプライドがひしひしと感じられた。

来年は俺たちが同じ言葉をぶちあげてやる。六甲戦士には最高の発奮材料になった。

07年度・六甲クラブの戦いは終わった。選手・スタッフ・O B・家族が一体となって戦い抜いたシーズンだった。タマリバはまだまだ強かった。しかし、05年の大敗以降、確実に差は縮まってきている。この試合で、タマリバへの苦手意識は完全に消えた。

涙の向うに来季の光ははっきり見えた。来年こそ、この場所で日本一を一。六甲クラブの挑戦は終わらない。

準決勝 六甲クラブvs北海道バーバリアンズ(1月14日)

15回を数える大会で、6度目の激突となった両チーム。強風の中で行われた試合は、互いに強力FWを前面に押し出した、力と力のぶつかり合いとなった。

前半風上を取ったのは六甲。3点を追う15分。相手陣10mラインアウトからモールで前進して左に展開。9→10→12と渡り、12CTB内田が突進。バーバリアンズのタックルをふりほどきながら、ゴールポスト真下に飛び込み逆転に成功。ゴールも決まって7-3とした。だが、それ以降、六甲はキックで敵陣深く攻め込むものの、FL・マクドナルドを中心とするバーバリアンズの執拗なボールへのからみに苦しみ、なかなか得点を加えることができない。28分のゴール前ラックのトライチャンスも、「クラブ界のミスタージャッカル」マクドナルドの長い手が伸びてターンオーバーを許してしまう。

後半に入ると、バーバリアンズの逆襲が始まる。17分、28分と、FB笹田が確実にPGを決めて10-9の1点差に迫った。六甲はゴールラインを背にして必死のディフェンス。バーバリアンズもSO鈴木の効果的なタッチキックで六甲陣に入るが、トライどころのラインアウトで、強風によるノットストレートを連発してしまった。

逆に六甲はマイボールラインアウトをほぼ完璧にキープ。モールでじわりじわりと陣地を挽回していく。スクラムでも、PR北迫、HO安田が中心となってプレッシャーをかけ続け、バーバリアンズにクリーンな球出しをさせなかった。

後半38分、バーバリアンズ陣ゴール前スクラム。「ここが勝負所」と六甲は一気の押しでターンオーバー。FL伊藤宏成が歓喜のトライを挙げた。バーバリアンズも最後まであきらめない。ロスタイムの44分、自陣ラックから左に展開。9→10→7→11と渡り、11WTB池田が40メートルを駆け抜けた。しかしドロップキックによる自らのコンバージョンはゴールポストに跳ね返され、無情のノーサイド。六甲クラブが3年ぶりの決勝進出を果たした。日本を代表するクラブによる最後まで手に汗握る死闘に、九州のラグビーファンからは惜しめない拍手が送られた。

試合後のファンクションで、バーバリアンズの村屋主将は「前半は我慢

一回戦 六甲クラブvsウルトラマンクラブ(1月13日)

3年連続4回目の組み合わせとなったこのカード。序盤は地元・九州開催に燃えるウルトラマンクラブの激しいタックルに、六甲は苦しんだ。試合が動いたのは前半20分。ウルトラマン陣5mラインアウトから、六甲FL・伊藤宏成が一瞬のスキをつき、先制トライ。26分には、ラックの連取からLO打出がわずかなほころびを見せた防御陣を突破して、ゴールポスト真下に飛び込んだ。

ウルトラマンクラブは攻め込むものの、ノックオンなどの手痛いミスが響いた。「前半に1トライでも返しておけば、試合展開は違うものになっていたはず」とウルトラマンの白石代表は唇をかんだ。後半に入ると、FWでプレッシャーをかける六甲が爆発する。0分、3分、26分、28分と立て続けにトライを奪い、試合の大勢を決めた。六甲WTB山本幸宏は、この日4トライの活躍を見た。

ウルトラマンクラブは果敢に攻めるも、スクラム、ラインアウトなどのセットプレーで苦しんだ。それでも後半31分、35分と、こぼれ球からトライを奪い返し、スタンドに駆けつけたチビッ子応援団の声援に応えていた。「あの2トライで、ウチらしさは見ることができたと思う」と、衛藤主将は来年以降の雪辱を誓っていた。

会場の鞘ヶ谷競技場は、八幡製鉄ラグビー部の伝統が染み込んだ歴史あるグラウンド。前夜の雨でピッチの状況が心配されたが、九州協会の



●エピソード1

1~2回戦が開かれた北九州市の本城競技場の所長さんが以下のような感想を述べられました。「30年近くグラウンド管理の仕事をしているが、着替えを終えて帰るチームから、ホウキとチリトリを貸してくれと初めていわれました。部屋を掃除していたチームは、ラグビー、サッカー、陸上その他を含めて初めてのことでした」

●エピソード2

クラブ大会を担当したレフェリーから、「あらためてクラブ大会の規律とモラルの高さを認識しました。社会人や大学で失ってしまったラグビーの規律をゲームだけでなくアフタマッチファンクションまで含めてクラブチームは忘れずに実践していることが素晴らしい……」

して、風上になった後半に勝負をかけるというプラン通りの展開でしたが、六甲さんの圧力が凄かった」とコメント。チームを鼓舞する再三の突進で何度もゴール前に迫った。「今日は何とかバーバリアンズさんに勝たせてもらった。選手全員が六甲クラブのプライドを持って、最後まで集中を切らさずに闘ったことが、秩父宮につながったと思います。決勝ではバーバリアンズの分も挑戦していきたい」と六甲主将・伊藤康裕は決意を述べた。決勝まで1カ月。六甲クラブはできる限りの調整を積んでタマリバクラブに挑戦する。



スタッフとグラウンド関係者のご尽力により、選手は最高の環境の中で思い切りプレーを楽しむことができた。

「今日は両チーム合わせた反則が12。クラブラガーマンらしく、互いに反則しないように心がけているのが分かりました。私も気持ちよく笛が吹けました」。試合後のファンクションで石本レフェリーがコメントした通り、熱くなり過ぎることもなく、互いに正々堂々とした戦いぶりであった。「ウルトラマンさんのプライドも背負って、明日の準決勝に臨みたい」と、六甲主将・伊藤康裕は言葉に力をこめた。

(財団法人日本ラグビーフットボール協会提供)